

## 【活動記録】

### 書評会 櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編『アジアの社会参加仏教』

2015年度第1回「宗教と社会貢献」研究会  
2015年5月9日、國學院大學渋谷キャンパス

※書評会の活動の詳細は電子ジャーナル『宗教と社会貢献』の次号（第5巻第2号）に収録予定

#### 【1】書評会の目的

本書評会で取り上げたのは、櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編『アジアの社会参加仏教』（北海道大学出版会、2015年）である。

同書の主な目的は、1)アジア各地域における仏教の社会参加を、その宗教が置かれている社会状況を踏まえて分析すること、2)アジア諸地域における基本的な宗教状況を盛り込んだテキストを目指すことである。対象地域は東アジア（日本、台湾、中国、韓国など）、東南アジア（タイ、ミャンマー、ベトナムなど）、南アジア（インド、スリランカなど）であり、各地域を専門とする研究者（社会学、文化人類学など）が論考を寄せている。

同書では、特に 1)仏教の社会参加、2)宗教の社会活動と政治、3)アジアの政教関係と国家の介入の3点を軸に、これらアジア諸地域における社会参加仏教が論じられている。同書が論じるアジアの社会参加仏教というテーマは、本研究会のテーマである「宗教と社会貢献」と大きく重なる。同書に関する議論を深めることは、今後の研究の展開においても大きな意味があり、書評会を企画するに至った。

#### 【2】書評会の記録

書評会は以下の登壇者によって行われた（15：30～17：30）。

- ・評者：ランジャンナ・ムコパディヤーヤ（デリー大学）、伊達聖伸（上智大学）
- ・編者：櫻井義秀（北海道大学）、外川昌彦（広島大学）、矢野秀武（駒澤大学）
- ・司会：大谷栄一（佛教大学）

まず司会の大谷が、書評会の趣旨ならびに同書の設立背景と編集意図、本書の分析視角について説明をした。

続いて、評者のムコパディヤーヤと伊達から、同書に対するコメントが述べられた。たとえば、仏教の社会参加と市民社会論や世俗化論、ジェンダー論との関係、ソーシャルキャピタルの両義性、他学問分野との共同、他地域との比較などについて論点が提起された。

評者のコメントの後に、編者である櫻井・外川・矢野から、コメントへのリプライがなされた。その後、フロアからの質問を受け付け、評者・編者・フロア・司会者合わせての活発な議論が行われた。

（寺沢重法）